

# 刻む会

## たより



NO.3

91.9.24

長生炭鉱の「水非常」を

歴史に刻む会

(代表) 山口 武信

宇部市編倉町1-2(澄田方)

☎0836-218238

長生炭鉱についての基礎調査

を始めて約二カ月、収穫は皆無に近い。山口地方法務局宇部支局での土地、建物の登記簿閲覧等で次のことが明らかになった。

一、長生炭鉱は現在登記されていない。閉鎖登記簿も無いので過去にも登記されたことが無い。頼尊氏の個人経営だったのである。

広島法務局に登記のあった長生炭鉱株式会社は一九五二年に登記されたもので、私達の調査している長生炭鉱と無関係ではないが、直接はつながらない。(代表取締役は頼尊淵之助、取締役は頼尊覇隼太氏が就任して

いる。)

二、長生炭鉱の所在地は耕地と山に跨がっており、所在がはっきりしない。耕地は地図(分間図)があり所在が特定できない。山は地図がないので特定できない。(国土調査法による調査が完了した地域を除いて全国で山の地図が無いのは、鹿児島、高知と山口県だけである。)

三、長生炭鉱所有地は現在判明しているものだけで二四筆(二四個)四八三九六平方(一四六四〇坪)ある。この数字は現在頼尊一族が所有しているもので、既に売却した土地は含めていない。調査をすすめると更に

増えると思える。

四、長生炭鉱所有と思われる土地のなかに登記簿表題部所有者欄に床波組と記されている土地が二筆ある。

五、床波組については調査中である。

六、一九四三(昭和一八)年一〇月(水非常の約一年八カ月後)当時の建物は八三棟(?)あった。総面積は一二、〇二九五四平方(三六三八・九三坪)で六筆の敷地の上に建てられていた。主な建物は事務所 三棟、

合宿所 四棟、工場 三棟、倉庫・講堂・浴室・巻場・精米所・門衛各一棟、それに職員住宅と思われる居宅五二棟である。殉難碑が建っている場所は食堂の跡と言われているが登記簿には載っていない。



長生炭鉱跡に立つ

布引 宏

風花の消えゆく海の底深く眠らぬ魂の叫び聞ゆる

水没の海底炭鉱はあの下に海面を突き出排気口見ゆ

炭鉱の潰えたる底に水漬きて坑夫等死せり戦争のかけに

軍国の連行のはての海の底朝鮮人坑夫よ日本を許せ

にわかにも「炭鉱の男」と讃えられ日本人坑夫死地に入らされき

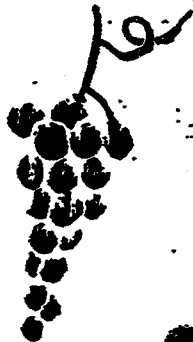
遭難碑「炭鉱の男」と讃うるも朝鮮人と一言もなし

伝来の姓を変えられ炭鉱に死せし人等の名簿を写す

伝来の姓を変えられど名は変えぬ人等の位牌並びるかも

アイゴの嘆き響きし炭鉱の社宅は朽ちて雨に打たるる

朝鮮分断の責任は日本にありという韓国青年に我応え得ず



(表紙よりつづき)

七、前川雅夫氏の労作「長崎炭鉱誌」によれば頼尊淵之助は一九一三年(大正二年)一月二五日松島炭鉱株式会社の常務取締役に就任している。同社は三井六割、古賀四割出資の会社である。また同氏は「もと神戸シー・メンス商会勤務」とある。未だ報告でぎるだけの調査はできていないが、とりあえずの経過報告です。(文責嶺野)

第二回朝鮮人・中国人

強制連行・強制労働を考える

全国交流集会報告

右の集会在、今夏七月二十七日二十八の両日、兵庫県西宮市立勤労会館を主会場にして開催された。当会からは山口、嶺野、澄田の三人が出席。長生炭鉱の「水非常」について報告した。主なプログラムは全体集会、

分科会、交流会、ワールドワーク（西宮市甲陽園の地下工場跡）、朴寿南製作「アリランのうた」上映で、参加者は五百人くらいであった。

記念講演「強制連行調査の課題と展望」と題して朴慶植さんは、一九六〇年五月号「世界」で初めて強制連行という語を使ったが当時は人々の関心を得られなかった。我々の運動は日朝間の歴史を訂正することにあると語られた。朴さんとは分科会でも一緒になれてその人柄にも親しくふれることができ幸運であった。「三分間スピーチ」では実に三〇人の人が各地の活動を報告。その運動のひろがりには驚いた。それにしても戦争末期には本土決戦に備えて、やたらにトンネルを掘っている。まさに狂

気の沙汰である。

分科会は、入門講座、花岡峰起事件、土木建設工事、炭鉱・鉱山・軍需工場、地区工場・地下軍需施設建設工事、軍人・軍属・従軍慰安婦、教育実践、ビデオ、地域史のみなおし、戦争動員・強制連行・強制労働と戦後補償。と一〇の部会が容易されていて、それぞれに数名の発題者が決められていた。私達三人が出席した炭鉱と強制連行の部会では、強制連行の原因としては労働力不足が第一の理由だが、物価上昇、特にすべての産業のエネルギー源であった石炭の価格上昇が戦争経済の破綻を招きかねない程であったことが指摘された。また、「徴用」を一、二年と限定したのは、戦争が短期間に終了すると考えたか

らではなく、そうしないと人集めが難かしかつたからであることも教えられた。最初からだますつもりだったのである。

ワールドワークでは六甲山の麓甲陽園にある地区工場跡に行った。トンネルは、住宅街の中にあり、しかも私のように体の小さい者も蟹の横這いをしないと通れない家と家との間を抜けると突然洞穴が現れる。花崗岩を掘削したもので、ハツバの跡も残っていた。次代に伝えるべき貴重な歴史遺構として保存する運動がはじまっている。

あとの報告は省略するが、来年も同じく七月終わりの日曜日を使って、広島で開催することが決まった。多数の方が参加されるとよいと思っている。元気ができる集会である。（澄田記）